

## 研修会報告

令和5年1月21日

文責：千葉 勇希

研修会テーマ 「濃く、熱く、血液を語らう ～細胞・特殊染色編～」

開催日時 令和5年1月21日（土） 13：45～16：45

会場 Zoom ウェビナーによる Web 開催

司会 宮城県立がんセンター 佐藤正康

仙台医療センター 伊東貴美

コメンテーター 東北大学病院 菅原新吾

岩手医科大学附属病院 千葉拓也

生涯教育点数 20点

参加者 会員参加者 145名 入会申請中会員 0名 非会員 1名 賛助会員 0名

学生 0名

合計 146名

講演1 13：45～15：05（質疑応答含）

「検査データと形態から血液疾患に気付く ～だっぷり細胞編～」

順天堂大学医学部附属浦安病院 臨床検査医学科 係長 澤田 朝寛 技師

講演2 15：15～16：45（質疑応答含）

「血液特殊染色（細胞化学染色） うまく使いこなせていますか？」

滋賀県立総合病院 臨床検査部 主任主査 梅村 茂人 技師

16：50 終了

### 内容

今回の研修会は「濃く、熱く、血液を語らう ～細胞・特殊染色編～」をテーマに開催し、前半は日常遭遇しうる異常データについて、血球形態との関連性の理解を深め、血液疾患に気付く知識を身に着けることを目的とした。後半は特殊染色における染色時のコツや陰性・陽性判定時の注意点等を熟練技師から学び、手技・知識を習得することを目的とした。

講演1では、実際の症例データとライブによる顕微鏡カメラを用いて疾患の鑑別や問題解決に必要な着眼点を詳しく説明いただいた。血液像を観察することで血算データに影響を与える要因を推定可能な場合があり、目視確認の重要性を感じた。また、疾患を鑑別診断するためには血算のデータだけではなく血液像やFCM、遺伝子・染色体の検査結果等を総

合的に判断する必要があるが、追加検査を選択する上で形態学が非常に有用なツールになることを改めて感じた講演であった。

講演 2 では、特殊染色について染色時の注意点や判定時のコツからその意義まで詳しく丁寧に解説いただいた。特殊染色は普通染色から得られ情報に客観性をもたせるものであるが、そのためには適切な陽性陰性コントロールを置くことが重要であることを学んだ。また、形態学は疾患を診断するために非常に重要な検査であるが、土台となる染色工程が適切に行われなければ、その有用性は低下してしまうことを改めて感じた講演であった。

今回の研修会は血液学の入門者だけでなく、ある程度経験のある技師にも非常に有益な研修会であり、経験年数に関わらず日々のルーチン業務に役立つ内容であった。両講演ともコメンテーターだけでなく、参加者からの質問も多く活発な議論が行われた。アンケートからも参加者の満足度がうかがえた。また今回の研修会は県外からも多くの方に参加いただいた。

今後も参加者のために楽しく学べる研修会企画し、参加者の増加につなげたい。今回のアンケート集計結果を、今後の研修会企画に反映させていきたい。